

聖書箇所Ⅰ： マタイ18：23-35

- 23 このことから、天の御国は、地上の王にたとえることができます。王はそのしもべたちと清算をしたいと思った。(24) 清算が始まると、まず一万タラントの借りのあるしもべが、王のところに来て連れて来られた。(25) しかし、彼は返済することができなかつたので、その主人は彼に、自分も妻子も持ち物全部も売って返済するように命じた。
- 26 それで、このしもべは、主人の前にひれ伏して『どうかご猶予をください。そうすれば全部お払いいたします』と言った。(27) しもべの主人は、かわいそうに思って、彼を赦し、借金を免除してやった。(28) ところが、そのしもべは、出て行くと、同じしもべ仲間、彼から百デナリの借りのあるものに出会った。彼はその人をつかまえ、首を絞めて、『借金を返せ。』と言った。
- 29 彼の仲間は、ひれ伏して、『もう少し待ってくれ。そうしたら必ず返すから。』と言って頼んだ。
- 30 しかし彼は承知せず、連れて行って、借金を返すまで牢に投げ入れた。
- 31 彼の仲間たちは事の成り行きを見て、非常に悲しみ、行って、その一部始終を主人に話した。
- 32 そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『悪いやつだ。おまえがあんなに頼んだからこそ借金を赦してやったのだ。』
- 33 私がおまえを哀れんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。』
- 34 こうして、主人は怒って、借金を全部返すまで、彼を獄吏に引き渡した。(35) あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。

聖書箇所Ⅱ： 第一コリント15：19-20

- 19 もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。
- 20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。

メッセージ骨子：

<序論> 先日94歳で亡くなったやなせたかしさんは、60歳まで売れない漫画家でした。弟も姉も両親も戦争でなくし、人生の意味を問いながら漫画を描いてきました。自分の戦争体験から、正義の味方とは、自分が傷つきながらも人を愛する人ではないかと考え、自分の顔をちぎっておなかをすかせた人に食べさせてあげるアンパンマンを描きます。そして90歳をすぎてから起こった、あの東日本大震災で、この作品の威力がいかに発揮され、多くの被災した人たちの心を癒し、潤すこととなります。

<ポイント1> 「冬に向かい始めたら、人を赦し、人生をフラットに仕上げる」

1万タラントは六千億円、百デナリは百万円。私たちが神に赦してもらった罪の大きさ(六千億相当)に比べると、他人が私たちに負う負債(百万)などタカが知っているのに、それが赦せないのが私たちです。そんな、人を赦せない人の心はまるで囚人状態。自分で自分を縛り、牢屋に閉じ込めているのと同じだと聖書は言います。(マタイ18：33-35) 人を赦すことで解放され、一番利益を得るのは、実は私たち自身なのです。

<ポイント2> 「Xデーには、和と平等を心がける」

ヤコブの、ヨセフに対するえこひいきゆえに、兄弟の仲はおかしくなり、その結果彼は最愛の息子から長年の間引き離されます。彼の最後の遺言は、その反省もあり、12人も息子たちを全く公平に扱った内容でした。またアブラハムは、先に祝福された者として、おいのロトに土地選びの優先権を与え、彼の謙遜なリーダーシップから、民全体に主にある愛と尊敬が流れ出していきました。遺産を与える側も、受け継ぐ側も、和と平等を求めるなら、そこにはシャローム(平安)が存在します。

<ポイント3> 「after Xデー、復活を夢見る」

キリストは復活した。この事実なしにキリスト教会は存在しえないし、もしそれがうそだったら、私たちほど哀れな人はいないとパウロは言います。事実うそのために人生を掛ける人はいません。キリストの復活は、それを信じる私たちも死後復活するという、まえぶれ、型、そして初穂なのです。

<まとめ> 三浦綾子さんは若いころ、週末にデートの約束があったら、それだけでウィークデーの過ごし方が全然違うという経験をしました。私たちもイエス様とデートの約束をしませんか。ウィークエンドならぬライフエンドの。Xデーの次の瞬間、主は私たちを迎え、共に神のみ前に立ってくださいませ。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく永遠の命を持つためである。」(ヨハネ3：16)